

《担当者名》 高橋祐輔 池森康裕（看） 吉田 繁 坊垣暁之 近藤 啓 小野誠司

【概要】

医療現場では、些細なミスやその重なりが過誤または事故に繋がる可能性がある。医療現場のみならず過去に発生した様々な事故案件を知り、当時の分析やその後の対応状況などを学ぶことで、実際に目前にある危機を予測したり、予防したりするための洞察力を育み、自らの危機予防能力を高め、現実世界で様々遭遇する事例に対して備える事を目標にする。また、臨床検査業務を行う各検査室での過誤と対処法を学び、自分と患者様の安全を確保するための考え方や対処法を養う。特に、採血室での過誤と対処法に関連し、正しい採血方法を習得することも目標とする。

【学修目標】

- 1) 医療人としての高い倫理観を身につけるため、医療倫理を理解する。
- 2) 医療現場で医療事故を引き起こさないために、医療安全に関する知識を身につける。
- 3) 臨床検査技師の法的責任について列挙できる。
- 4) 医療事故事例に対し、情報を適切に分析し、解決法を推論できる。
- 5) 医療リスク、医療過誤について理解し、その原因や対処について科学的思考と的確な判断で分析し説明できる。
- 6) ヒューマンエラーの意味を理解し、その原因を説明できる。
- 7) 各検査室の進歩や変化を学ぶことで、起きやすい過誤を理解し、リスクマネジメントについて説明できる。
- 8) 臨床検査に必要な知識と技術として、採血の方法や注意点を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	総論 医療倫理 医療安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・医療倫理の基本概念 ・医療安全の概要 ・医療事故事例 ・合併症 ・安全管理 教科書：第2章 キーワード：医療安全、インシデント、ハインリッヒの法則、ニューマンエラー、PDCAサイクル	高橋祐輔
2	総論 法的知識と責任範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・医療事故への対応 ・臨床検査技師の法的責任とその範囲 教科書：第2章 キーワード：事故対応、事故調査、法的責任、行政処分	高橋祐輔
3	老化にともなう身体の変化について	<ul style="list-style-type: none"> ・身体の高齢化に伴う生活リスク 1)感覚器系, 2)内分泌・代謝系, 3)心循環器系 4)呼吸器系, 5)運動器系 	池森康裕
4	採血法	<ul style="list-style-type: none"> ・採血時の安全管理 ・臨床検査技師の採血行為の範囲 ・採血の種類 教科書：医療安全管理学 第4章 A,B	吉田 繁
5	採血法	<ul style="list-style-type: none"> ・採血の部位と手段 ・採取に際しての注意事項 ・乳幼児の採血 教科書：医療安全管理学 第4章 A,B	吉田 繁
6	採血法 検体検査室でのリスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・採血に伴う静脈路確保（電解質輸液の注入を含む） ・採血で起こりやすい過誤と対処法 ・検体検査の過程で起こりやすい過誤と対処法 	坊垣暁之 吉田 繁
7	検体検査室でのリスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・病理検査、細菌検査の過程で起こりやすい過誤と対処法 キーワード：病理検査、細菌検査、検査過誤	近藤 啓
8	生理機能検査室でのリスクマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・生理検査の過程で起こりやすい過誤と対処法 教科書：第4章 キーワード：心電図、負荷試験、検査過誤	小野誠司

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 80% 課題 20%

【教科書】

諏訪部章 他 編「最新臨床検査学講座 医療安全管理学 第2版」 医歯薬出版 2023年

【参考書】

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 監修「臨床検査技師のための医療安全管理教本 第1版」じほう 2017年

【備考】

クリッカーを使用し学生の理解度を把握する。

Google Formを利用して学修課題を提示する。

【学修の準備】

今回の授業内容およびキーワードについて、教科書を読み理解しておくこと(120分)

授業終了後に提示した課題を実施すること(120分)

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP1) 生命の尊重を基盤とした豊かな人間性、幅広い教養、高い倫理観を身につけている。

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

(DP4) 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に興味を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。

(DP6) 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

【実務経験】

高橋祐輔（臨床検査技師）、池森康裕（介護福祉士）、吉田 繁（臨床検査技師）、坊垣暁之（医師）、近藤 啓（臨床検査技師）、小野誠司（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、基本的手技から臨床検査の過誤まで、実践的指導を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している